

平成30年度予算のあらまし

一般会計・特別会計・企業会計を合計した市全体の予算規模は1兆791億円で、前年度比318億円減少したものの、震災以降引き続き1兆円を超える高い水準となりました。

一般会計では、子ども・子育て支援関連経費や学校建設費が増加した一方で、埋立処分場の施設整備費が減少したことなどにより、前年度比86億円減の5,390億円となりました。

また、特別会計は国民健康保険事業費の減少などにより203億円減少し、企業会計は下水道事業における復興事業の進捗に伴う工事費の減少などにより29億円減少しました。

歳入 市税収入は増加、繰入金は減少

市税収入は、県費負担教職員権限移譲に伴う県から市への税源移譲等により、前年度に比べて224億円増加しました。

一方、繰入金は、復興事業の進捗に伴う東日本大震災復興交付金基金からの繰り入れの減少などにより、75億円減少しました。

歳出 義務的経費は増加、投資的経費は減少

【目的別の歳出】 子育て支援や障害者福祉など社会福祉に要する費用である健康福祉費は、1,917億円（35.6%）と最も大きな割合を占めました。次いで学校建設費の増加などにより教育費が931億円（17.3%）、土木費が759億円（14.1%）、公債費が569億円（10.6%）となりました。

【性質別の歳出】 人件費、社会保障給付等の扶助費、借入金の返済である公債費を合わせた義務的経費は、私立保育所運営委託費等の扶助費の増加などを受けて、前年度に比べて54億円の増加となりました。

また、投資的経費は埋立処分場の施設整備費が減少したことなどにより、前年度に比べて27億円の減少となりました。

「人とまちがともに育つ、新たな杜の都」の実現に向けた財政運営

本年度は、施政方針に掲げた3つの施策の柱である「人を育み、人がつながるまちづくり」・「まちを育む、活力デザイン」・「次代へつなぐ、防災環境都市推進」に重点的な予算配分を行いました。

また、「人とまちがともに育つ、新たな杜の都」の実現に向けて、地域経済の活性化による税源の涵養や公共施設の長寿命化による後年度負担の軽減、既存事業の手法見直しによる費用抑制の取り組みにより、持続可能な財政基盤の確立を目指していきます。

予算についてのお問い合わせは
 財政企画課 ☎214・8111、FAX262・6709、
 または市ホームページ [仙台市の財政](#)

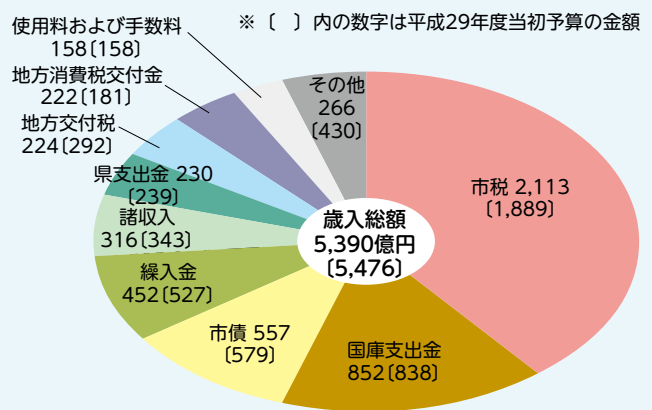
- 一般会計…特別会計、企業会計以外の全ての歳入・歳出を経理。行政運営の基本的な経費を計上する会計
- 特別会計…国民健康保険や介護保険など、その事業に要する経費が保険料など特定の収入で原則賄われる会計
- 企業会計…民間企業と同じように原則としてサービスの提供で収益を上げ、その収益で費用を賄う事業の会計。仙台市には下水道、バス、地下鉄、水道、ガス、病院の各事業があります

●平成30年度の会計別の予算規模

	平成30年度（前年度比）
一般会計	5,390億円（86億円減少）
特別会計	3,010億円（203億円減少）
企業会計	2,391億円（29億円減少）
合計	1兆791億円（318億円減少）

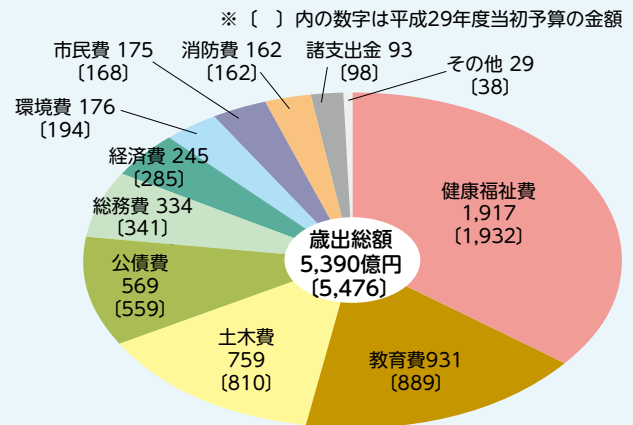
●歳入内訳（一般会計）

（単位：億円）



●【目的別】歳出内訳（一般会計）

（単位：億円）



●【性質別】歳出額（一般会計）の推移

（単位：億円）

